



In re U.S. Patent Application of

ISOBE et al.

Application Number: 10/808,364

Filed: March 25, 2004

For: METHOD FOR MANAGING DISK DRIVES OF
DIFFERENT TYPES IN DISK ARRAY DVICE

Attorney Docket No. HITA.0532

Honorable Assistant Commissioner
for Patents
Washington, D.C. 20231

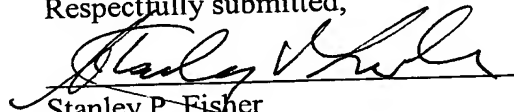
**REQUEST FOR PRIORITY
UNDER 35 U.S.C. § 119
AND THE INTERNATIONAL CONVENTION**

Sir:

In the matter of the above-captioned application for a United States patent, notice is hereby given that the Applicant claims the priority date of February 9, 2004 the filing date of the corresponding Japanese patent application 2004-031507.

A certified copy of Japanese patent application 2004-031507 is being submitted herewith. Acknowledgment of receipt of the certified copy is respectfully requested in due course.

Respectfully submitted,


Stanley P. Fisher
Registration Number 24,344

REED SMITH LLP
3110 Fairview Park Drive
Suite 1400
Falls Church, Virginia 22042
(703) 641-4200
June 30, 2004

Juan Carlos A. Marquez
Registration Number 34,072



EFW

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re U.S. Patent Application of

ISOBE et al.

Application Number: 10/808,364

Filed: March 25, 2004

For: **METHOD FOR MANAGING DISK DRIVES OF
DIFFERENT TYPES IN DISK ARRAY DEVICE**

Attorney Docket No. HITA.0532

Honorable Assistant Commissioner
for Patents
Washington, D.C. 20231

LETTER

Sir:

The below-identified communications are submitted in the above-captioned application or proceeding:

- | | | |
|---|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> (X) | Priority Documents (1) | <input type="checkbox"/> () Assignment Document |
| <input checked="" type="checkbox"/> (X) | Request for Priority | <input type="checkbox"/> () Petition under 37 C.F.R. 1.47(a) |
| <input type="checkbox"/> () | Response to Missing Parts
w/ signed Declaration | <input type="checkbox"/> () Check for \$130.00 |

The Commissioner is hereby authorized to charge payment of any fees associated with this communication, including fees under 37 C.F.R. § 1.16 and 1.17 or credit any overpayment to **Deposit Account Number 08-1480**. A duplicate copy of this sheet is attached.

Respectfully submitted,

Stanley P. Fisher

Registration Number 24,344

Juan Carlos A. Marquez
Registration Number 34,072

REED SMITH LLP
3110 Fairview Park Drive
Suite 1400
Falls Church, Virginia 22042
(703) 641-4200
June 30, 2004

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 4 年 2 月 9 日
Date of Application:

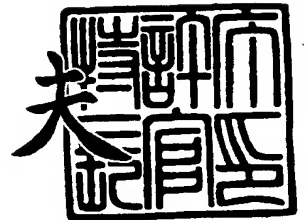
出 願 番 号 特 願 2 0 0 4 - 0 3 1 5 0 7
Application Number:
[ST. 10/C]: [J P 2 0 0 4 - 0 3 1 5 0 7]

出 願 人 株 式 会 社 日 立 製 作 所
Applicant(s):

2 0 0 4 年 3 月 2 4 日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

今 井 康 夫



出 証 番 号 出 証 特 2 0 0 4 - 3 0 2 4 1 8 2

【書類名】 特許願
【整理番号】 K04002171A
【あて先】 特許庁長官殿
【国際特許分類】 G06F 3/06
【発明者】
 【住所又は居所】 神奈川県小田原市中里 3 2 2 番 2 号 株式会社日立製作所 R A
 I D システム事業部内
 【氏名】 磯部 大介
【発明者】
 【住所又は居所】 神奈川県小田原市中里 3 2 2 番 2 号 株式会社日立製作所 R A
 I D システム事業部内
 【氏名】 加納 東
【発明者】
 【住所又は居所】 神奈川県小田原市中里 3 2 2 番 2 号 株式会社日立製作所 R A
 I D システム事業部内
 【氏名】 平沢 昭久
【発明者】
 【住所又は居所】 神奈川県足柄上郡中井町境 7 8 1 番地 日立コンピュータ機器株
 式会社内
 【氏名】 板垣 伸吾
【発明者】
 【住所又は居所】 神奈川県足柄上郡中井町境 7 8 1 番地 日立コンピュータ機器株
 式会社内
 【氏名】 館山 健一
【発明者】
 【住所又は居所】 神奈川県足柄上郡中井町境 7 8 1 番地 日立コンピュータ機器株
 式会社内
 【氏名】 永岩 禎憲
【発明者】
 【住所又は居所】 神奈川県足柄上郡中井町境 4 5 6 番地 株式会社日立インフォメ
 ーションテクノロジー内
 【氏名】 高橋 信博
【特許出願人】
 【識別番号】 000005108
 【氏名又は名称】 株式会社 日立製作所
【代理人】
 【識別番号】 100075096
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 作田 康夫
【選任した代理人】
 【識別番号】 100100310
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 井上 学
【手数料の表示】
 【予納台帳番号】 013088
 【納付金額】 21,000円
【提出物件の目録】
 【物件名】 特許請求の範囲 1
 【物件名】 明細書 1
 【物件名】 図面 1

【物件名】

要約書 1

【書類名】 特許請求の範囲**【請求項 1】**

ディスクアレイ装置であって、
ディスクアレイ装置筐体と、
該ディスクアレイ装置筐体内に格納された複数のディスク装置と、
該ディスク装置へのデータの読み書きを制御するコントローラと、
前記ディスク装置とコントローラとを接続するファイバチャネルケーブルとを備え、
前記ディスク装置には、ファイバチャネルインタフェースを有するファイバチャネルディスク装置と、シリアルインタフェースを有するシリアルディスク装置の 2 種類が含まれ

、
該シリアルディスク装置は、前記シリアルインタフェースをファイバチャネルインタフェースに変換するインタフェース接続装置を介して前記ファイバチャネルケーブルに接続されており、

前記コントローラは、前記ファイバチャネルケーブルを介した通信により、前記各ディスク装置の種類を判別するディスクアレイ装置。

【請求項 2】

請求項 1 記載のディスクアレイ装置であって、
前記コントローラを複数有し、
各コントローラは前記ファイバチャネルケーブルによって相互に接続されるとともに、個別に各ディスク装置と接続されることで、複数のファイバチャネルループを構成し、
前記各シリアルディスク装置と前記複数のファイバチャネルケーブルとの間に介在し、
前記シリアルディスク装置の接続先を前記複数のファイバチャネルケーブル間で切り換える切換器とを有するディスクアレイ装置。

【請求項 3】

請求項 1 記載のディスクアレイ装置であって、
前記複数のディスク装置を前記種類ごとに格納する複数のディスク装置筐体を有し、
前記シリアルディスク装置を格納するための前記ディスク装置筐体は、前記格納された各ディスク装置の動作状態を管理するための管理部を有し、
前記コントローラは、前記管理部との通信により前記種類を判別するディスクアレイ装置。

【請求項 4】

請求項 1 記載のディスクアレイ装置であって、
前記複数のディスク装置を前記種類ごとに格納するとともに、該種類に応じた一定の規則で各ディスク装置にアドレスを割り振った複数のディスク装置筐体を有し、
前記コントローラは、前記ディスク装置筐体内で前記各ディスク装置に割り当てられたアドレスに基づいて前記種類を判別するディスクアレイ装置。

【請求項 5】

請求項 4 記載のディスクアレイ装置であって、
前記種類に応じて前記ディスク装置に割り当てられるアドレス空間が異っており、
前記コントローラは、前記アドレス空間の差に基づいて前記判別を行うディスクアレイ装置。

【請求項 6】

請求項 4 記載のディスクアレイ装置であって、
前記ディスク装置筐体内での前記ディスク装置の配置と、各ディスク装置に割り当てられたアドレスとの対応関係が、前記種類に応じて異っており、
前記コントローラは、前記対応関係に基づいて前記判別を行うディスクアレイ装置。

【請求項 7】

請求項 1 記載のディスクアレイ装置であって、
前記複数のディスク装置を接続するための複数のコネクタが配置されたバックボードを有し、

前記複数のコネクタには、前記ディスク装置の種類に応じて位置および形状の少なくとも一方が異なるコネクタが混在しており、

前記コントローラは、前記ディスク装置が接続されているコネクタに基づき、前記種類を判別するディスクアレイ装置。

【請求項 8】

請求項 7 記載のディスクアレイ装置であって、

前記インタフェース接続装置は、前記バックボードにおいて、前記シリアルディスク装置が接続されるべきコネクタに接続されているディスクアレイ装置。

【請求項 9】

請求項 7 記載のディスクアレイ装置であって、

前記バックボードを介して、前記複数のディスク装置を格納する複数のディスク装置筐体を有し、

前記格納されるディスク装置の種類は、前記ディスク装置筐体ごとに統一されており、

前記コントローラは、前記各ディスク装置筐体につき、少なくとも一つのディスク装置が接続されているコネクタに基づいて前記判別を行うディスクアレイ装置。

【請求項 10】

請求項 7 記載のディスクアレイ装置であって、

前記バックボードを介して、前記複数のディスク装置を格納する複数のディスク装置筐体を有し、

前記ディスク装置筐体内には、前記複数種類のディスク装置が混在して格納可能であり、

前記コントローラは、前記ディスク装置ごとに、該ディスク装置が接続されている前記コネクタに基づいて前記判別を行うディスクアレイ装置。

【請求項 11】

請求項 1 記載のディスクアレイ装置であって、

前記各ディスク装置を収納するための複数の搭載ユニットを有し、

該複数の搭載ユニットは、外寸が統一されており、

前記シリアルディスク装置を格納するための搭載ユニットは、前記インタフェース接続装置を内蔵するディスクアレイ装置。

【請求項 12】

請求項 11 記載のディスクアレイ装置であって、

前記ディスク装置は、前記種類に関わらず統一的な位置に設けられた位置規制用の孔と、前記ファイバチャネルディスク装置およびシリアルディスク装置の一方にのみ設けられた誤挿防止用の孔の少なくとも一方を有し、

前記搭載ユニットは、内部に、前記位置規制用の孔に対応して設けられたテーパ形状の位置規制用のピン、および前記誤挿防止用の孔に対応して設けられたピンの少なくとも一方を備えるディスクアレイ装置。

【請求項 13】

複数のディスク装置と、該ディスク装置へのデータの読み書きを制御するコントローラとが、ファイバチャネルケーブルを介して接続された状態でディスクアレイ装置筐体内に格納されたディスクアレイ装置において、前記コントローラが前記ディスク装置を管理する管理方法であって、

前記ディスク装置には、ファイバチャネルインタフェースを有するファイバチャネルディスク装置と、シリアルインタフェースを有するシリアルディスク装置の 2 種類が含まれ、

該シリアルディスク装置は、前記シリアルインタフェースをファイバチャネルインタフェースに変換するインタフェース接続装置を介して前記ファイバチャネルケーブルに接続されており、

前記管理方法は、

前記コントローラが、前記ファイバチャネルケーブルを介して、前記少なくとも一部

のディスク装置と直接または間接に通信を行う工程と、

該通信に基づいて前記各ディスク装置の種類を判別する工程とを備える管理方法。

【請求項 14】

請求項 13 記載の管理方法であって、

前記ディスクアレイ装置は、

前記コントローラを複数有し、

各コントローラは前記ファイバチャネルケーブルによって相互に接続されるとともに、個別に各ディスク装置と接続されることで、複数のファイバチャネルループを構成し、

前記各シリアルディスク装置と前記複数のファイバチャネルケーブルとの間に介在し、前記シリアルディスク装置の接続先を前記複数のファイバチャネルケーブル間で切り換える切換器とを有し、

前記各コントローラは、個別に前記判別を行う管理方法。

【請求項 15】

請求項 13 記載の管理方法であって、

前記複数のディスク装置を前記種類ごとに格納する複数のディスク装置筐体を有し、

前記シリアルディスク装置を格納するための前記ディスク装置筐体は、前記格納された各ディスク装置の動作状態を管理するための管理部を有し、

前記コントローラは、前記管理部との通信により前記種類を判別する管理方法。

【請求項 16】

請求項 13 記載の管理方法であって、

前記複数のディスク装置を前記種類ごとに格納するとともに、該種類に応じた一定の規則で各ディスク装置にアドレスを割り振った複数のディスク装置筐体を有し、

前記コントローラは、前記ディスク装置筐体内で前記各ディスク装置に割り当てられたアドレスに基づいて前記種類を判別する管理方法。

【請求項 17】

請求項 16 記載の管理方法であって、

前記種類に応じて前記ディスク装置に割り当てられるアドレス空間が異なっており、

前記コントローラは、前記アドレス空間の差に基づいて前記判別を行う管理方法。

【請求項 18】

請求項 16 記載の管理方法であって、

前記ディスク装置筐体内での前記ディスク装置の配置と、各ディスク装置に割り当てられたアドレスとの対応関係が、前記種類に応じて異なっており、

前記コントローラは、前記対応関係に基づいて前記判別を行う管理方法。

【請求項 19】

請求項 13 記載の管理方法であって、

前記複数のディスク装置を接続するための複数のコネクタが配置されたバックボードを有し、

前記複数のコネクタには、前記ディスク装置の種類に応じて位置および形状の少なくとも一方が異なるコネクタが混在しており、

前記コントローラは、前記ディスク装置が接続されているコネクタに基づき、前記種類を判別する管理方法。

【請求項 20】

請求項 19 記載の管理方法であって、

前記バックボードを介して、前記複数のディスク装置を格納する複数のディスク装置筐体を有し、

前記格納されるディスク装置の種類は、前記ディスク装置筐体ごとに統一されており、

前記コントローラは、前記各ディスク装置筐体につき、少なくとも一つのディスク装置が接続されているコネクタに基づいて前記判別を行う管理方法。

【請求項 21】

請求項 19 記載の管理方法であって、

前記バックボードを介して、前記複数のディスク装置を格納する複数のディスク装置筐体を有し、

前記ディスク装置筐体内には、前記複数種類のディスク装置が混在して格納可能であり、

前記コントローラは、前記ディスク装置ごとに、該ディスク装置が接続されている前記コネクタに基づいて前記判別を行う管理方法。

【請求項 22】

上位装置に接続され、前記上位装置からデータを受ける通信制御部と、

前記通信制御部に接続され、前記上位装置との間でやり取りされるデータを保存するキャッシュメモリと、

前記上位装置及び前記キャッシュメモリに接続され、前記上位装置との間でやり取りされるデータを、前記通信制御部に対して転送し又は前記通信制御部から受信するように制御する複数のコントローラと、

前記複数のコントローラによって管理される情報を保存する情報格納メモリと、

前記複数のコントローラの制御によって、前記上位装置から受けたデータを転送する複数のドライブインタフェースと、

を有するコントローラ筐体と、

前記コントローラ筐体内の前記複数のドライブインタフェースと接続される複数のファイバチャネルループと、

前記複数のファイバチャネルループと接続され、前記コントローラ筐体と自筐体との接続の切り替えに利用される複数の切り替え回路と、

前記複数のコントローラと前記複数のファイバチャネルループによって接続され、前記複数のファイバチャネルループにおいて利用されるファイバチャネルインタフェースとシリアルディスクドライブ用のインタフェースと接続させる複数のインタフェース接続装置と、

前記複数のインタフェース接続装置に接続され、前記複数のインタフェース接続装置からのデータの受信の切り替えを制御する複数のデュアルポート切り替え装置と、

前記複数のデュアルポート切り替え装置に接続され、前記ドライブインタフェースによって転送されたデータを、前記ファイバチャネルループ、前記切り替え回路、前記インタフェース接続装置、及び前記デュアルポート切り替え装置を介して受信して格納する複数のシリアルディスクドライブと、

前記インタフェース接続装置の動作を監視する筐体管理用プロセッサと、

を有するシリアルディスクドライブ筐体とを有し、

前記複数のインタフェース接続装置は、前記シリアルディスクドライブ筐体に接続されているディスクドライブについての情報を収集し、前記シリアルディスクドライブ筐体に接続されているディスクドライブが、シリアルディスクドライブであるか否かを判断して、前記シリアルディスクドライブ筐体に接続されているディスクドライブがシリアルディスクドライブである場合には、前記ファイバチャネルループを利用して前記コントローラに対して、前記シリアルディスクドライブ筐体に接続されているディスクドライブがシリアルディスクドライブであることを通知するものであり、

前記コントローラは、前記シリアルディスクドライブ筐体に接続されているディスクドライブがシリアルディスクドライブであることを前記メモリに登録し、前記シリアルディスクドライブ筐体に接続されているディスクドライブをシリアルディスクドライブとして管理するものであることを特徴とするディスクアレイ装置。

【書類名】明細書

【発明の名称】ディスクアレイ装置における異種ディスク装置の管理方法

【技術分野】

【0001】

本発明は、インタフェースが異なる複数種類のディスク装置を混在して有するディスクアレイ装置に関し、詳しくはかかるディスクアレイ装置における異種ディスク装置の管理方法に関する。

【背景技術】

【0002】

ディスクアレイ装置に利用されるディスク装置には、種々のインタフェース、特性を有するものがある。例えば、ファイバチャネルインタフェースによってデータの読み書きを行うディスク装置（以下、「ファイバチャネルディスク装置」または「FCディスク装置」と称する）は、複数のコントローラがアクセス可能のようにデュアルパス化されている。また、読み書きの速度が速いという特性がある。

【0003】

別の種類として、シリアルインタフェースによってデータの読み書きを行うディスク装置（以下、「シリアルディスク装置」または「SATAディスク装置」と称する）は、シングルポートである。また、読み書きの速度は比較的遅いが、比較的低コスト、大容量という特性を有している。近年、SATAディスク装置について、耐障害性を向上するために、デュアルパス化して使用するための技術が提案されている（特許文献1参照）。この技術では、各SATAディスク装置は、シリアルインタフェースをファイバチャネル用のインタフェースに変換する変換部、デュアルパス化するためのデュアルポート装置を介して、ファイバチャネルに接続されている。

【0004】

【特許文献1】米国特許出願公開2003/135577号明細書

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

従来、ディスクアレイ装置では、いずれか単一種類のディスク装置が統一的に用いられていた。従って、コントローラは、ディスク装置の種類を把握できず、ディスク装置の種類に対応した動きもできないため、データの内容やアプリケーションに応じてディスク装置を使い分ける等することができない。本発明は、かかる背景を考慮し、コントローラが、各ディスク装置の種類を容易に把握するための技術を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明は、ディスクアレイ装置筐体内に、複数のディスク装置と、ディスク装置へのデータの読み書きを制御するコントローラが格納され、相互にファイバチャネルケーブルによって接続されたディスクアレイ装置を対象とする。ディスク装置には、ファイバチャネルインタフェースを有するファイバチャネルディスク装置、FCディスク装置と、シリアルインタフェースを有するシリアルディスク装置、SATAディスク装置の2種類が含まれる。シリアルディスク装置は、シリアルインタフェースをファイバチャネルインタフェースに変換するインタフェース接続装置を介してファイバチャネルケーブルに接続されている。かかるディスクアレイ装置において、本発明では、コントローラが、ファイバチャネルケーブルを介した通信によって、各ディスク装置の種類を判別する。こうすることにより、各ディスク装置の種類を、ユーザが設定するまでなく、コントローラが自動的に判別し管理することができる。また、各ディスク装置の種類の誤判定を抑制し、適切な管理を実現することもできる。

【0007】

本発明は、コントローラを複数有し、デュアルパス化されたディスクアレイ装置に適用してもよい。かかる構成では、各コントローラがファイバチャネルケーブルによって相互

に接続されるとともに、個別に各ディスク装置と接続されることで、複数のファイバチャネルループを構成する。各シリアルディスク装置は、その接続先を複数のファイバチャネルケーブル間で切り換える切換器を介して各ファイバチャネルループに接続される。このような構成では、各コントローラが個別に、各ディスク装置の種類を判別するようにしてもよいし、いずれか一方のコントローラが判別した結果を他方のコントローラが利用するようにしてもよい。

【0008】

ディスクアレイ装置では、ディスク装置を所定数ごとにディスク装置筐体に収納した上で、ディスクアレイ装置筐体に格納する構造を採ることがある。かかる場合には、ディスク装置筐体ごとにディスク装置の種類を統一してもよいし、ディスク装置筐体内で異種のディスク装置を混在させてもよい。

【0009】

ディスク装置筐体内でディスク装置の種類が統一されている場合、少なくともシリアルディスク装置を格納するためのディスク装置筐体には、格納された各ディスク装置の動作状態を管理するための管理部を設けることが好ましい。この管理部が備えられている場合には、コントローラは、管理部との通信によりディスク装置の種類を判別することができる。

【0010】

ディスク装置筐体内でディスク装置の種類が統一されている場合、各ディスク装置筐体内では、種類に応じた一定の規則で各ディスク装置にアドレスを割り振ってもよい。この場合、コントローラは、各ディスク装置に割り当てられたアドレスに基づいて種類を判別することが可能となる。アドレスの割り振り方としては、例えば、種類に応じてアドレス空間を変えても良い。また、ディスク装置筐体内でのディスク装置の配置と、各ディスク装置に割り当てられたアドレスとの対応関係を変えても良い。後者の態様としては、例えば、一列に配列されたディスク装置に対して、FCディスク装置の場合は昇順にアドレスを割り当て、SATAディスク装置では降順にアドレスを割り当てる態様が挙げられる。この逆の対応関係でもよい。

【0011】

コントローラは、次の方法でディスク装置の種類を判別してもよい。ディスクアレイ装置において、複数のディスク装置を接続するための複数のコネクタが配置されたバックボードを設け、複数のコネクタは、ディスク装置の種類に応じて位置および形状の少なくとも一方を変えておく。こうすれば、コントローラは、ディスク装置が接続されているコネクタに基づき、種類を判別することができる。

【0012】

この構造においては、バックボードにおいて、シリアルディスク装置が接続されるべきコネクタにインタフェース接続装置を接続してもよい。こうすれば、シリアルディスク装置をコネクタに接続するだけで、容易にファイバチャネルに接続することができる。

【0013】

コネクタに基づいて種類を判別する方法は、ディスク装置筐体内でディスク装置の種類が統一されている場合、異種のディスク装置が混在している場合の双方に適用することができる。前者に適用する場合には、コントローラは、各ディスク装置筐体につき、少なくとも一つのコネクタを用いれば判別することができる。後者の場合には、ディスク装置ごとに、コネクタに基づいて判別を行えばよい。

【0014】

本発明のディスクアレイ装置では、各ディスク装置を収納するために、外寸が統一された搭載ユニットを用いても良い。各ディスク装置は、搭載ユニットに収納された状態で、ディスク装置筐体に格納される。こうすることで、異種のディスク装置で外寸が異なる場合でも、搭載ユニットに収納した状態ではサイズが統一されるため、取り扱いが容易となる利点がある。更に、シリアルディスク装置を格納するための搭載ユニットには、インタフェース接続装置を内蔵することが好ましい。こうすることで、搭載ユニットの外部イン

タフェースをファイバチャネルに統一することができるため、更に取り扱いが容易となる利点がある。

【0015】

かかる搭載ユニットにおいては、ディスク装置を確実に保持するための機構や、異種のディスク装置の誤挿入を防止するための機構を備えても良い。前者の機構として、全種類のディスク装置に統一的な位置に位置規制用の孔を設け、搭載ユニットの内部に、この位置規制用の孔に対応する位置にテーパ形状の位置規制用のピンを設けてもよい。こうすることで、ガタなくディスク装置を保持することができる。後者の機構として、ファイバチャネルディスク装置およびシリアルディスク装置の一方にのみ誤挿防止用の孔を設け、搭載ユニットの内部に、この誤挿防止用の孔に対応してピンを設けても良い。こうすることで、ピンに対応した誤挿防止用の孔が空いていないディスク装置の挿入を防止することができる。位置規制用のピンと、誤挿防止用のピンは、両方を備えても良いし、両方を兼用させてもよい。例えば、位置規制用のピンおよび孔の位置を、ディスクの種類に応じて変えることにより、位置規制と誤挿防止の双方の機能を果たさせることができる。

【0016】

本発明は、上述したディスクアレイ装置としてのみならず、ディスクアレイ装置におけるディスク装置の管理方法として構成してもよい。また、ディスク装置の管理を実現するためのコンピュータプログラム、かかるコンピュータプログラムを記録したコンピュータ読み取り可能な記録媒体として構成してもよい。記録媒体としては、フレキシブルディスクやCD-ROM、光磁気ディスク、ICカード、ROMカートリッジ、パンチカード、バーコードなどの符号が印刷された印刷物、コンピュータの内部記憶装置（RAMやROMなどのメモリ）および外部記憶装置等、コンピュータが読取り可能な種々の媒体を利用できる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0017】

本発明の実施例について以下の順序で説明する。

【0018】

- A. 第1実施例：
 - A1. システム構成：
 - A2. ディスク種別管理処理：
 - A3. 変形例：
- B. 第2実施例：
- C. 変形例：

A. 第1実施例：

A1. システム構成：

図1は実施例としての情報処理システムの概略構成を示す説明図である。情報処理システムは、ストレージ装置1000と、ホストコンピュータHCとをSAN (Storage Area Network) で接続して構成される。各コンピュータHCは、ストレージ装置1000にアクセスして、種々の情報処理を実現することができる。ローカルエリアネットワークLAN (Local Area Network) には、管理装置10が接続される。管理装置10は、ネットワーク通信機能を有する汎用のパーソナルコンピュータなどを利用することができ、管理ツール11、即ちストレージ装置1000の動作設定をしたり、ストレージ装置1000の動作状態を監視したりするためのアプリケーションプログラムがインストールされている。

【0019】

ストレージ装置1000の内部には、ストレージ装置筐体の内部に複数のディスク装置筐体200、コントローラ筐体300が格納されている。ディスク装置筐体200は、後述する通り、内部に多数のディスク装置（以下、「HDD」と呼ぶこともある）を格納している。ディスク装置は、パーソナルコンピュータなどで採用されている3.5インチの汎用的なものを利用可能である。コントローラ筐体300は、ディスク装置へのデータの

読み書きを制御するためのコントローラ 310 を格納している。本実施例では、2つのコントローラを格納するデュアルコントローラ型を適用した。コントローラ 310 は、S A N を介してホストコンピュータ H C とデータ授受を行い、L A N を介して管理装置 10 とデータ授受を行うことができる。コントローラ筐体 300 と、各ディスク装置筐体 200 は、背面側において、ファイバチャネル用のケーブル（以下、「E N C (Enclosure) ケーブル」と呼ぶ）で相互に接続されている。

【0020】

図示を省略したが、ストレージ装置筐体には、この他、A C / D C 電源、冷却ファンユニット、バッテリーユニットが設けられている。バッテリーユニットは二次電池を内蔵しており、停電時に電力を供給するバックアップ電源として機能する。

【0021】

図2はディスク装置筐体 200 の斜視図である。前面には、ルーバ 210 が取り付けられており、その内部には、複数のディスク装置 220 が配列されている。各ディスク装置 220 は、前面に引き出すことで着脱、交換可能である。図の上方には、背面側の接続パネルの様子を示した。本実施例では、ディスク装置 220 は、二つの E N C (Enclosure) ユニット 202 に分けて格納されている。各 E N C ユニットには、E N C ケーブルの I N 側コネクタ 203、O U T 側コネクタ 205 がそれぞれ2つずつ設けられている。2つの E N C ユニット 202 が格納される結果、ディスク装置筐体 200 には、合計4つの I N 側コネクタ 203、O U T 側コネクタ 205、即ち4本のパス（以下、「F C - A L ループ」とも称する）に対応したコネクタが設けられることになる。各コネクタには、上方に L E D 204 が設けられている。但し、図の煩雑化を回避するため、L A N 204 の符号は、コネクタ 203 [1] についてのみ付した。E N C ユニット 202 には、L A N ケーブルを接続するための L A N 用コネクタ 206、通信状態を示すための L E D 207 を設けても良い。

【0022】

図3はディスク装置筐体 200 の内部構造を模式的に示す説明図である。本実施例では、2種類のインタフェースを有するディスク装置 220 を利用可能とした。一つは、ファイバチャネル用のインタフェースを有するディスク装置 220 F（以下、「F C ディスク装置」と称する）であり、もう一つは、シリアルインタフェースを有するディスク装置 220 S（以下、「S A T A ディスク装置」と称する）である。異なるインタフェースを併用可能とするための回路構成については後述する。以下、単に「ディスク装置 220」という場合には、インタフェースの種類を問わない総称を意味し、インタフェースごとに区別する場合には、F C ディスク装置 220 F、S A T A ディスク装置 220 S を用いるものとする。

【0023】

上記2種類のディスク装置は、次の特徴を有している。F C ディスク装置 220 F は、デュアルポート化されており、2つのパスからの読み書きが可能である。また、S C S I 3 (Small Computer System Interface 3) 規格に規定される S E S (S C S I Enclosure Service) や E S I (Enclosure Service I/F) の機能を備えている。S E S とは、電源、冷却デバイス、インジケータ、個々のディスク装置、スイッチ（エンクロージャ）などディスク装置筐体 200 内に搭載された種々のエレメントの作動状況を監視したり、ステータスの読み取りに使用されるソフトウェア仕様である。E S I は、S E S コマンドおよびその結果を授受するためのハードウェアインタフェースである。S E S および E S I を使用することにより、例えば、各ディスク装置の作動状況を確認することが可能となる。S A T A ディスク装置 220 S は、本実施例では、シングルポートであり、S E S や E S I の機能を有していないものとする。但し、これらの機能を有する S A T A ディスク装置 220 S の適用を排除するものではない。

【0024】

図の下方に、各ディスク装置 220 F、220 S の側面図を示した。それぞれ、ディスク装置筐体 200 への着脱に利用されるハンドル 222 F、222 S と、コネクタ 221

F、221Sが設けられている。コネクタ221F、221Sは、上下方向位置をずらして設けられている。

【0025】

図の中央に示す通り、ディスク装置筐体200の背面には、ディスク装置220を装着するためのコネクタ231F、231Sが配列されたバックボード230が取り付けられている。コネクタ231FはFCディスク装置220F用であり、コネクタ221SはSATAディスク装置220S用である。コネクタ231F、231Sは、上下一組にして、ディスク装置220の装着位置に対応して左右方向に配列されている。各ディスク装置220F、220Sをディスク装置筐体200の前面から引き出し式に挿入すると、ディスク装置のコネクタ221F、221Sは、その種類に応じて、バックボード230のコネクタ231F、231Sのいずれか一方に装着される。ディスク装置220の種類によって装着されるコネクタを変えることで、後述する通り、インタフェースの差違を補償するための回路の使い分けが実現される。また、コネクタの相違は、各ディスク装置220の種類の判別にも利用することができる。

【0026】

コネクタに接続されると、各ディスク装置220は、ディスク装置筐体200の4本のバスPath0～Path3にそれぞれ接続される。本実施例では、各ディスク装置220は、Path0、3に接続されるものと、Path1、2に接続されるものを交互に配置した構成とした。こうすることで、各ディスク装置220については、4本のバスのうち、2本を介してアクセス可能なデュアルバス構成が実現される。図3に示した構成は、一例に過ぎず、ディスク装置筐体200内部のバス数、ディスク装置220との対応関係は、種々の態様を採ることが可能である。

【0027】

図4はストレージ装置1000の内部構造を模式的に示す説明図である。コントローラ筐体300に内蔵されるコントローラ310の内部構造、およびディスク装置筐体200の内部構造を模式的に示した。コントローラ310は、内部にCPU312、RAMやROMなどのメモリ等を備えたマイクロコンピュータである。コントローラ310は、ホストコンピュータHCとの通信インタフェースであるホストI/F311、ディスク装置筐体200との通信インタフェースであるドライブI/F315を有している。ホストI/F311は、ファイバチャネル規格に準拠した通信機能を提供する。ドライブI/F315は、SCSI規格やファイバチャネル規格の通信機能を提供する。

【0028】

メモリとしては、ディスク装置220への書き込みデータや読み出しデータが記憶されるキャッシュメモリ313、および制御用の種々のソフトウェアを記憶するためのFLASHメモリ314などが含まれる。コントローラ310には、AC/DC電源の状態監視、ディスク装置220の状態監視、表示パネル上の表示デバイスの制御、筐体各部の温度監視などを行う回路が実装されているが、これらについては図示を省略した。

【0029】

本実施例では、2つのコントローラ310[0]、310[1]によって、先に図3に示した4つのループPath0～Path3が形成される。図4中では、図示の煩雑化を回避するため、これらのうちPath0、3またはPath1、2の組み合わせに相当する2つのループを例示した。各コントローラ310[0]、310[1]は、破線で示すようにバスの切換が可能である。従って、例えば、コントローラ310[0]は、図中の矢印a、bに示すように2つのループのいずれを経由しても各ディスク装置220にアクセスすることが可能である。コントローラ310[1]についても同様である。

【0030】

ディスク装置筐体200には、先に説明した通り、複数のディスク装置220が接続される。FCディスク装置220Fは、PBC (Port Bypass Circuit) 251、252を介して、2つのFC-A Lループにそれぞれ接続される。

【0031】

一方、SATAディスク装置220Sは、DPA (Dual Port Apparatus) 232、FC/SATAインタフェース接続装置233、234およびPBC251、252を介して、2つのFC-ALループにそれぞれ接続される。DPA232は、単一ポートのSATAディスク装置220Sを、デュアルポート化するための回路である。DPA232を用いることにより、SATAディスク装置220Sは、FCディスク装置220Fと同様に、いずれのFC-ALループからのアクセスも受け入れ可能となる。

【 0 0 3 2 】

【0032】
FC/SATAインタフェース接続装置233、234は、SATAディスク装置220Sのシリアルインタフェースと、ファイバチャネルインタフェースとの変換を行うための回路である。この変換には、例えば、SATAディスク装置220Sにアクセスするために用いられるプロトコルおよびコマンドと、ファイバチャネルで用いられるSCSIプロトコルおよびコマンドとの変換が含まれる。

【 0 0 3 3 】

【 0 0 3 3 】
先に説明した通り、F C ディスク装置 2 2 0 F は、S E S 機能を備えているのに対し、S A T A ディスク装置 2 2 0 S は、この機能を備えていない。ディスク装置筐体 2 0 0 に は、この差違を補償するため、筐体管理部 2 4 1、2 4 2 が設けられている。筐体管理部 2 4 1、2 4 2 は、内部に C P U、メモリ、キャッシュメモリなどを備えたマイクロコンピュータであり、ディスク装置筐体 2 0 0 内部の各ディスク装置 2 2 0 からディスク種別、アドレス、動作状態その他の管理情報を収集する。筐体管理部 2 4 1、2 4 2 は P B C 2 5 1、2 5 2 を介して 2 つの F C - A L ループに接続されており、収集した情報を、コントローラ 3 1 0 からの S E S コマンドに応じて、コントローラ 3 1 0 に提供する。本実施例では、コントローラ 3 1 0 がディスク装置 2 2 0 の種別に関わらず統一的な方法で管理情報を取得可能とするため、筐体管理部 2 4 1、2 4 2 は、S A T A ディスク装置 2 2 0 S のみならず F C ディスク装置 2 2 0 F についても管理情報の収集を行うものとした。

【 0 0 3 4 】

【0034】
PBC251は、FC-ALループに接続される3つの装置、FCディスク装置220F、FC/SATAインタフェース接続装置233、および筐体管理部241の間のパス／バイパスを制御する。通常、PBC251は、コントローラ310からのコマンドに応じて、FCディスク装置220F、FC/SATAインタフェース接続装置233、および筐体管理部241の一つを選択して同一のFC-ALループに接続する。また、PBC252は、障害発生時などに、FC-ALループに接続される3つの装置、FCディスク装置220F、FC/SATAインタフェース接続装置234、および筐体管理部242を、FC-ALループから切り離すことができる。

【 0 0 3 5 】

【0035】
 以上で説明した構造により、本実施例のストレージ装置1000は、次の特徴を有する。第1に、FC/SATAインタフェース接続装置233、234の機能により、各ディスク装置筐体200の内部に、FCディスク装置220F、SATAディスク装置220Sという2種類のディスク装置を混在して格納することができる。第2に、DPA232の機能により、SATAディスク装置220Sについてもデュアルポート化が実現される。第3に、筐体管理部241、242の機能により、コントローラ310は、SATAディスク装置220Sについても管理情報の収集が容易となる。これらの特徴は、図1～4で説明した構成に基づくものであり、本実施例に必須という訳ではない。本実施例は、上述のストレージ装置1000以外にも、上記特徴の一部を有しない構造も含め、種々の構造からなるストレージ装置を適用可能である。

A2. ディスク種別管理処理:

A2. ディスク種別管理処理：
図5はディスク種別管理処理のフローチャートである。コントローラ310が、各ディスク装置220の種別、即ちFCディスク装置220FであるかSATAディスク装置220Sであるかを把握、管理するための処理である。左側に、コントローラ310が実行する処理を示し、右側に筐体管理部241、242が実行する処理を示した。

【0036】

この処理が開始されると、コントローラ 310 は、ディスク種別の確認指示を入力する（ステップ S10）。確認指示は、例えば、ユーザがコントローラ 310 の操作、管理装置 10 からのコマンドによって明示的に行うものとしてもよいし、ストレージ装置 1000 の起動を確認指示とみなすようにしてもよい。コントローラ 310 が定期的にこの処理を実行するようにしてもよい。この場合には、例えば、保守などでディスク装置 220 の取り外し、交換を行った時、ユーザ等による明示的な指示無しで、構成上の変更を管理することができる利点がある。

【0037】

コントローラ 310 は、確認指示に応じて、ディスク装置筐体 200 ごとに、そこに格納されているディスク装置 220 の種別を、筐体管理部 241、242 に問い合わせる。筐体管理部 241、242 は、この問い合わせを入力すると（ステップ S20）、各ディスク装置 220 が接続されているコネクタに基づいて、種別を確認する（ステップ S22）。つまり、ディスク装置 220 が、先に図 3 で示したコネクタ 231F に接続されている場合には「FC ディスク装置」であり、コネクタ 231S に接続されている場合には「SATA ディスク装置」として認識する。筐体管理部 241、242 は、こうして得られた確認結果を、コントローラ 310 に通知する（ステップ S24）。

【0038】

上述の処理は、筐体管理部 241、242 のうち、コントローラ 310 からの問い合わせを受けたいずれか一方のみが行えばよい。また、筐体管理部 241、242 は、ディスク装置の種別を予め確認・保存しておき、この結果を問い合わせに応じてコントローラ 310 に通知するようにしてもよい。

【0039】

コントローラ 310 は、筐体管理部 241、242 からの通知を受けると、その結果をディスク種別管理テーブルに格納する（ステップ S14）。ディスク種別管理テーブルは、各ディスク装置 220 の種別を管理するために、コントローラ 310 のキャッシュに格納されるテーブルである。図中にディスク種別管理テーブルの内容を例示した。ディスク装置 220 は、ディスク装置筐体 200 の番号、ENC ユニット 202 の番号、各ポートに固有のアドレスの組み合わせで特定される。例えば、図中の最上段のレコードは、ディスク装置筐体「#00」番の ENC ユニット「0」番に格納された、アドレス「#00」のディスク装置 220 が、「FC ディスク装置」であることを意味している。

【0040】

コントローラ 310 は、全ディスク装置筐体について、以上の処理を繰り返し実行することにより（ステップ S18）、各ディスク装置 220 の種別を確認することができる。以上で説明した実施例のストレージ装置 1000 によれば、FC ディスク装置 220F と SATA ディスク装置 220S が、各ディスク装置筐体 200 の内部に混在して格納されている場合でも、コントローラ 310 は、その種別を容易に確認、管理することができる。従って、コントローラ 310 は、FC ディスク装置 220F、SATA ディスク装置 220S の特性を活かし、データの読み書きの制御等を行うことが可能となる。例えば、異種のディスク装置を混在させてディスクアレイ装置を構成すれば、各種の特性を十分に活用しつつ、短所をディスク装置間で補償することができるようになる。

A3. 変形例:

(1) 実施例では、筐体管理部 241、242 への問い合わせによって、各ディスク装置 220 の種別を確認する処理を例示した。これに対し、コントローラ 310 は、各ディスク装置 220 に対して、個別に種別の問い合わせを行うようにしてもよい。この処理には、例えば、SCSI の「Modesense」コマンドが利用可能である。

(2) 図 6 は変形例としてのディスク種別管理処理のフローチャートである。左側がコントローラ 310 が実行する処理、右側が筐体管理部 241、242 が実行する処理である。変形例では、筐体管理部 241、242 が定期的に、ディスク装置筐体 200 の内部構造を監視している。保守などによって、ディスク装置 220 の取り外し、交換などが行われ、ディスク装置 220 の構成に変更が生じると、筐体管理部 241、242 が、コン

トローラ 310 に対して、ディスク種別の確認指示を出力する（ステップ S40）。コントローラ 310 は、この指示に応じて、実施例と同様のディスク種別管理処理（ステップ S10～S16）を実行する。この過程では、筐体管理部 241、242 は、コントローラ 310 からの問い合わせに対して、実施例と同様、結果の通知を行う（ステップ S20～S24）。変形例の処理によれば、ディスク装置 220 の構成が変更された場合に、速やかにその変更をディスク種別管理テーブルに反映させることができる利点がある。

【0041】

図 6 の変形例では、筐体管理部 241、242 からコントローラ 310 に確認指示を出力する場合を例示した。別の変形例として、筐体管理部 241、242 が、ディスク装置の構成変更を検出した場合、コントローラ 310 に確認指示を出力することなく、ステップ S22 の種別確認、ステップ S24 の結果通知を行うものとしてもよい。コントローラ 310 は、この結果通知を、ディスク種別管理テーブルに格納すればよい（ステップ S14）。こうすれば、ディスク装置 220 の構成が変更されたディスク装置筐体 200 についてのみ、効率的に構成変更をディスク種別管理テーブルに反映させることができる。

【0042】

図 5、図 6 のディスク種別管理処理を利用したディスクアレイ装置によれば、ユーザは、希望により、FC ディスク装置及び SATA ディスク装置のいずれのディスク装置も利用できる。具体的には、例えば、ユーザは、データの内容やアプリケーションに応じてディスク装置を使い分けることができる。その際に、ユーザは、例えば、図 10 に示されるように、全てのディスク装置筐体内のディスク装置を FC ディスク装置とすることもできるし、図 11 に示されるように、全てのディスク装置筐体内のディスク装置を SATA ディスク装置とすることもできる。

(3) 図 7 は第 1 変形例としてのストレージ装置の内部構造を模式的に示す説明図である。実施例と同じ構成要素には同一の符号を付した。変形例のストレージ装置も、各ディスク装置筐体 200C 内に、FC ディスク装置 220F と、SATA ディスク装置 220S とを混在して格納することができる。

【0043】

但し、変形例では、SATA ディスク装置 220S は、パスCTL 232A および FC/SATA インタフェース接続装置 233A、234A を介して FC-AL ループに接続される。パスCTL 232A は、SATA ディスク装置 220S を擬似的にデュアルポート化するための装置である。内部には、SATA ディスク装置 220S の接続先を、2つの回線間で物理的に切り換えるためのスイッチと、このスイッチを制御するための制御回路を有している。スイッチの切り換えによって、SATA ディスク装置 220S へはいずれの FC-AL ループからもアクセス可能となるが、スイッチの故障時にはいずれか一方の FC-AL ループからのアクセスに制約されるという制限がある。

B. 第 2 実施例:

図 8 はストレージ装置 1000 の第 2 実施例としての内部構造を模式的に示す説明図である。第 2 実施例では、各ディスク装置筐体 200B は、FC ディスク装置 220F または SATA ディスク装置 220S のいずれかを統一的に格納する。図の例では、ディスク装置筐体 200B [0] は FC ディスク装置 220F を格納し、ディスク装置筐体 200B [1] は SATA ディスク装置 220S を格納している。

【0044】

FC ディスク装置 220F は、2つの FC-AL ループに接続される。FC ディスク装置 220F は、筐体管理部 241、242 と ESI で接続されており、筐体管理部 241、242 からの SES コマンドを伝達する機能を有している。

【0045】

SATA ディスク装置 220S は、DPA 232、FC/SATA インタフェース接続装置 233、234 を介して 2つの FC-AL ループに接続される。筐体管理部 241、242 も FC-AL ループに接続される。この例では、PBC を省略しているが、設けてもよい。SATA ディスク装置 220S は、第 1 実施例における変形例（図 7）で示した

ようにバスCTLを介して接続してもよい。

【0046】

第2実施例におけるディスク種別管理について説明する。第2実施例の構成においても、コントローラ310は、第1実施例の図5、6と同様、筐体管理部241、242や、各ディスク装置220に、種別を問い合わせることも可能である。第2実施例では、以下に示す通り、かかる処理の他、ディスク装置220に割り当てられるAL-PA (Arbitrated Loop Physical Address) を用いてディスク装置220の種別を判断することも可能である。

【0047】

図9は第2実施例におけるディスク種別管理処理のフローチャートである。図の右側に、ディスク装置220に割り当てられるAL-PAを例示した。ここでは、理解を容易にするために現実のAL-PAと異なる値を示した。本実施例では、ディスク装置220の種別に応じて、ディスク装置筐体ごとに、ポートとAL-PAの対応関係を変えておくものとする。図中に例示する通り、FCディスク装置220Fが格納されたディスク装置筐体200B[0]では、ポート「00、01、02...」に対して、「00、01、02...」と昇順にAL-PAを割り当てる。SATAディスク装置220Sが格納されたディスク装置筐体200B[1]では、ポート「00、01、02...」に対して、「0E、0D、0C...」と降順にAL-PAを割り当てる。逆に、FCディスク装置220Fに対して降順、SATAディスク装置220Sに対して昇順としてもよい。コントローラ310は、以下に示す処理により、この対応関係に基づいてディスク装置220の種別を確認する。この考え方に基づく判定は、AL-PAの値に関わらず、適用可能である。

【0048】

図中の左側にコントローラ310が実行する処理を示した。コントローラ310は、ディスク種別確認の指示を入力し（ステップS30）、各ディスク装置筐体について、ディスク装置220のアドレスを確認する（ステップS32）。そして、アドレスマッピング、即ち上述したポートとAL-PAとの対応関係に基づいて、ディスク装置220の種別を判定する（ステップS34）。つまり、AL-PAが昇順に割り当てられている場合には「FCディスク装置」と判定し、降順に割り当てられている場合には「SATAディスク装置」と判定する。

【0049】

コントローラ310は、こうして得られた判定結果を、ディスク種別管理テーブルに格納する（ステップS36）。図中にディスク種別管理テーブルを例示した。第2実施例では、ディスク装置筐体200ごとに種別が統一されている。従って、ディスク種別管理テーブルは、ディスク装置筐体200の番号と種別を対応づけた簡素な構成とすることができる。かかる構成に代え、第1実施例のように、ディスク装置ごとに種別を管理するテーブルを用いても構わない。コントローラ310は、全ディスク装置筐体について、以上の処理を繰り返し実行することにより（ステップS38）、各ディスク装置220の種別を確認することができる。

【0050】

図9のステップS34では、アドレスマッピングに代えて、アドレスの範囲に基づいて種別を判定するようにしてもよい。例えば、FCディスク装置220Fには、「00～7E」の範囲でAL-PAを割り当て、SATAディスク装置220Sには、「80～FE」のAL-PAを割り当てる。このようにディスク装置の種別によって割り当てるAL-PAの範囲を変えておくことにより、AL-PAを種別の判定に利用することが可能となる。

【0051】

図10は第2実施例の第1変形例としてのストレージ装置1000の内部構造を模式的に示す説明図である。図8の構成において、全ディスク装置筐体にFCディスク装置を搭載した状態に相当する。図11は第2実施例の第2変形例としてのストレージ装置1000の内部構造を模式的に示す説明図である。図8の構成において、全ディスク装置筐体に

SATAディスク装置を搭載した状態に相当する。

【0052】

先に説明した図5、図6、図9のディスク種別管理処理を利用したディスクアレイ装置によれば、ユーザは、希望により、FCディスク装置及びSATAディスク装置のいずれのディスク装置も利用できる。具体的には、例えば、ユーザは、データの内容やアプリケーションに応じてディスク装置を使い分けることができる。その際に、ユーザは、例えば、図10に示されるように、全てのディスク装置筐体内のディスク装置をFCディスク装置とすることもできるし、図11に示されるように、全てのディスク装置筐体内のディスク装置をSATAディスク装置とすることもできる。

C. 変形例:

SATAディスク装置をFC-ALループに接続するための回路、図4に示したDPA232やFC/SATAインタフェース接続装置233、234は、ディスク装置筐体200側に備えてもよい。かかる構成について、以下、変形例として説明する。

【0053】

変形例の構成は、次に示す基本的な考え方に基づくものである。

【0054】

i) HDD搭載ユニットのHDDの間に中継コネクタを位置決めし、本体側とのコネクタ接続手段と固定手段と案内手段の寸法関係を同一にする。

【0055】

ii) 本体側の案内手段と勘合するHDD搭載ユニットの案内手段が長手方向にテーパ形状を成し、挿入完了時手前の隙間が小さくなる寸法関係とし、奥側は本体側にテーパ形状のピンを、HDD搭載ユニット側に勘合する穴を設け、隙間が挿入完了時小さくなる寸法関係とする。

【0056】

iii) 本体側のコネクタ組込み基板にテーパ形状のピンを、対応するHDD搭載ユニットに穴をあけ、HDDのインタフェースが合意しないときHDD搭載ユニットの穴を別部品で塞ぐ。

【0057】

iv) -1HDDの基板側3箇所と、長手側面2箇所と、前後どちらか一面の1箇所を搭載ユニット部品の対応する狭い各基準面に押し当て、基板側と対向する面の複数箇所をワンタッチ押圧する。

【0058】

v) -2HDDを組込むとき、ねじ締結されるめねじ穴と搭載ユニット部品の対応する穴を引抜き方式のリベット固定とする。

【0059】

図12はディスク装置の搭載ユニットの内部構造を模式的に示す説明図である。搭載ユニット400にFCディスク装置420Fを搭載した状態を示している。FCディスク装置420Fは、搭載ユニット400に収容された状態で、実施例で示したディスク装置筐体200に引き出し式に格納される。

【0060】

搭載ユニット400の本体401は、前面側が開口した中空の直方体状となっている。上下の面には前後方向に沿って、FCディスク装置420Fを収納する際の位置決め機能を奏するガイド402、403が設けられている。本体401の背面側には、矩形的開口部が設けられ、基板410が取り付けられている。基板410には、FCディスク装置220Fおよびディスク装置筐体200とそれぞれ接続するためのコネクタ415、416が設けられている。基板410には、また、位置決め機能を奏するテーパピン412、413および異種のディスク装置の誤挿入を防止するためのテーパピン411も設けられている。

【0061】

FCディスク装置420Fは、キャリー430に収容された状態で、本体401の内部

に収納される。キャリア 430 への収容方法については、後述する。キャリア 430 の背面側には、FC ディスク装置 420 F のコネクタ 421 に合わせて開口部が設けられている。キャリア 430 を本体 401 に収容すると、FC ディスク装置 420 F のコネクタ 421 は、本体側のコネクタ 415 と接続可能である。

【0062】

キャリア 430 には、テーパピン 411 ~ 413 に対応した孔 436、437、438 が背面側に設けられている。キャリア 430 を本体 401 に収容すると、各テーパピン 411 ~ 413 がそれぞれの孔 436 ~ 438 に挿入される。この構成では、適正に挿入された状態で、テーパピン 411 ~ 413 は、孔 436 ~ 438 よりも約 0.3 mm 半径が大きくなるよう、サイズが設定し、キャリア 430 の円滑な挿入を可能としている。

【0063】

キャリア 430 には、前面側に挿入時に使用するためのハンドル 433 が取り付けられている。ハンドル 433 の内部には、本体 401 にキャリア 430 を固定するためのラッチ 434 が設けられている。適正に挿入された状態では、本体 401 の背面から距離 L1 の位置に設けられた孔にラッチ 434 がはまることで、キャリア 430 は固定される。キャリア 430 の上下面には、それぞれ本体 401 のガイド 402、403 に挿入されるレール 431、432 が取り付けられている。図の下方に、キャリア 430 を下面から見た状態を示した。説明の便宜上、ガイド 403 の位置を一点鎖線で示した。

【0064】

レール 431 は、前面側の幅 L3 よりも背面側の幅 L4 が約 0.5 mm 若干狭くなっている。レール 431 の最大幅 L3 は、ガイド 403 の幅 L2 よりも 0.3 mm 狭い。つまり、 $L2 > L3 > L4$ の関係となっている。このように背面側が狭くなるテーパ形状とすることにより、キャリア 430 を本体 401 に円滑に挿入することが可能となる。

【0065】

キャリア 430 の底面には、FC ディスク装置 420 F を固定するネジを取り付けるためのネジ穴 431 a、431 b が設けられている。近接して 2 つのネジ穴 431 a、431 b が設けられているのは、キャリア 430 を種々のディスク装置で共用可能とするためである。ここでは、ネジ穴 431 b によって FC ディスク装置 420 F が固定されている例を示した。ネジ穴 431 a、431 b を含め、各ネジ穴の周囲には、ネジ頭がレール 431 から突出しないよう座繰りが設けてある。

【0066】

図 13 はキャリア 430 へのディスク装置 420 の収納方法を示す斜視図である。ディスク装置 420 は、図 12 に示した FC ディスク装置 420 F を含む、種々のインタフェースおよびサイズのハードディスクドライブの総称として用いる。

【0067】

キャリア 430 には、内部に、数個の突起 430 a が設けられている。これらの突起 430 a は、ディスク装置 420 を位置決めし、支持する機能を奏する。キャリア 430 の背面側には、コネクタ孔 430 c が開口しており、ディスク装置 420 の収容時には、コネクタ 421 が挿入される。ディスク装置 420 は、2 枚の押え板 440 によって脱落しないように支えられる。押え板 440 は、その端部 441 をそれぞれキャリア 430 の上下面に設けられたスリット 430 s に挿入することで装着される。最終的には、先に図 12 で示したネジ穴 431 a、431 b を介してネジで固定される。但し、ここでは、図の煩雑化を回避するため、ネジ穴 431 a、431 b の図示は省略した。

【0068】

図 14 は S A T A ディスク装置 420 S の収容状態を示す説明図である。中央に、搭載ユニット内に S A T A ディスク装置 420 S を収容した場合の内部構造を模式的に示した。搭載ユニットの本体、キャリアなどの構造は、図 12 に示したものと共通である。実施例では、FC ディスク装置と S A T A ディスク装置でコネクタの位置が異なっている場合を例示したが（図 3 参照）、ここでは両者の位置は一致しているものとする。図示する通り、S A T A ディスク装置 420 S は、アダプタ 450 を介してコネクタ 416 に接続さ

れる。

【0069】

図の上方にアダプタ450の斜視図を示した。アダプタ450の本体451は、略L字断面をなしており、中央付近の開口部に基板452が取り付けられている。基板452の表裏面には、それぞれSATAディスク装置420Sと接続するためのコネクタ453、および搭載ユニットに接続するためのコネクタ454が設けられている。図示を省略したが、基板452には、これらのコネクタ453、454の間に、SATAディスク装置420SをFC-ALループに接続するための各種回路が設けられている。かかる回路には、例えば、図4に示したDPA232、FC/SATAインタフェース接続装置233、234、図7に示したパスCTL232Aなどが含まれる。

【0070】

図の下方に変形例としてのアダプタ450Aの斜視図を示した。変形例のアダプタ450Aは、本体451A、基板452A、コネクタ453A、454Aを備える主部品と、サブ基板455とから構成される。サブ基板455には、コネクタ454Aに対応するコネクタ456と、搭載ユニットに接続するためのコネクタ457が設けられている。両者は、スペーサ458を挟んで一定の間隙を確保した状態で、ネジ459により固定される。この構造では、この間隙を利用して、SATAディスク装置420SをFC-ALループに接続するための各種回路を配置することができる。

【0071】

このようにアダプタ450、またはアダプタ450Aを用いてSATAディスク装置420Sを搭載ユニットに収容することにより、搭載ユニットとしては、外寸、インタフェースを統一化することができ、FCディスク装置とSATA装置との区別なく扱うことが可能となる。従って、ディスク装置筐体200への格納位置等を柔軟に変更可能となり、異種のディスク装置をより効率的に運用することが可能となる。

【0072】

ここでは、アダプタ450は、SATAディスク装置420S側に取り付ける場合を例示した。これに対し、アダプタ450を、搭載ユニットのコネクタ416に取り付けても良い。この場合には、搭載ユニットは、FCディスク装置用とSATAディスク装置用で異なる構成を有することになる。かかる場合には、FCディスク装置用の搭載ユニットに、SATAディスク装置420Sが誤って挿入されることを防止する機構を設けることが好ましい。

【0073】

図15は誤挿入防止機構について示す説明図である。ディスク装置をFCディスク装置用の搭載ユニットに誤ってSATAディスク装置420Sが挿入された場合を例示した。図の左側は搭載ユニットの側断面を表しており、右側にはキャリア430を背面側から見た状態を示している。

【0074】

先に説明した通り、搭載ユニットには、誤挿入を防止するためのピン411、位置決め用のピン412、413が設けられている。キャリア430には、これに対応する孔436～438が設けられている。この例では、誤挿入防止機構として、更に、孔436に対応する位置に、図中矢印方向に回動可能に蓋439を設けた。蓋439を図中の実線の位置、即ち孔436を塞ぐ位置にセットしておくことにより、ピン411が、キャリア430を搭載ユニットへの装着を防止する。蓋439を回動させ、孔436が現れる状態にしておけば、ピン411が孔436に挿入可能となり、キャリア430は搭載ユニットに装着可能となる。かかる機構を利用することにより、誤ったディスク装置が搭載ユニットに装着されることを簡易に回避することが可能となる。

【0075】

以上で説明した変形例の構造によれば、ディスク装置筐体200の回路は、FCディスク装置用に統一した状態で、異種のディスク装置を格納することが可能となる。変形例では、搭載ユニット400にディスク装置420を収容した上で、ディスク装置筐体200

に格納する場合を例示したが、SATAディスク装置420Sにアダプタ450を装着可能であれば、必ずしも搭載ユニット400を用いる必要はない。

【0076】

変形例の構造による効果としては、次の事項が挙げられる。

【0077】

i) HDD搭載ユニット構成部品を異なるHDDのキャリアに採用でき、標準化ができるため、インシャルコストの低減を図ることができる。

【0078】

i i) HDD搭載ユニットの円滑な着脱が可能となり時間短縮効果側を図ることができる。

【0079】

i i i) HDD搭載ユニットの誤挿入防止を図ることができる。

【0080】

i v) -1HDDを搭載ユニットにワンタッチ押圧することにより作業効率の向上を図ることができる。

【0081】

v) -2HDDを組込むとき、ねじ締結されるめねじ穴と搭載ユニット部品の対応する穴を引抜き方式のリベット固定とするより作業効率の向上を図ることができる。

【0082】

以上、本発明の種々の実施例について説明したが、本発明はこれらの実施例に限定されず、その趣旨を逸脱しない範囲で種々の構成を採ることができることはいうまでもない。

【図面の簡単な説明】

【0083】

【図1】 実施例としての情報処理システムの概略構成を示す説明図である。

【図2】 ディスク装置筐体200の斜視図である。

【図3】 ディスク装置筐体200の内部構造を模式的に示す説明図である。

【図4】 ストレージ装置1000の内部構造を模式的に示す説明図である。

【図5】 ディスク種別管理処理のフローチャートである。

【図6】 変形例としてのディスク種別管理処理のフローチャートである。

【図7】 第1変形例としてのストレージ装置の内部構造を模式的に示す説明図である。

。

【図8】 ストレージ装置1000の第2実施例としての内部構造を模式的に示す説明図である。

【図9】 第2実施例におけるディスク種別管理処理のフローチャートである。

【図10】 第2実施例の第1変形例としてのストレージ装置1000の内部構造を模式的に示す説明図である。

【図11】 第2実施例の第2変形例としてのストレージ装置1000の内部構造を模式的に示す説明図である。

【図12】 ディスク装置の搭載ユニットの内部構造を模式的に示す説明図である。

【図13】 キャリア430へのディスク装置420の収納方法を示す斜視図である。

【図14】 SATAディスク装置420Sの収容状態を示す説明図である。

【図15】 誤挿入防止機構について示す説明図である。

【符号の説明】

【0084】

10...管理装置

11...管理ツール

200、200A、200B...ディスク装置筐体

210...ルーバ

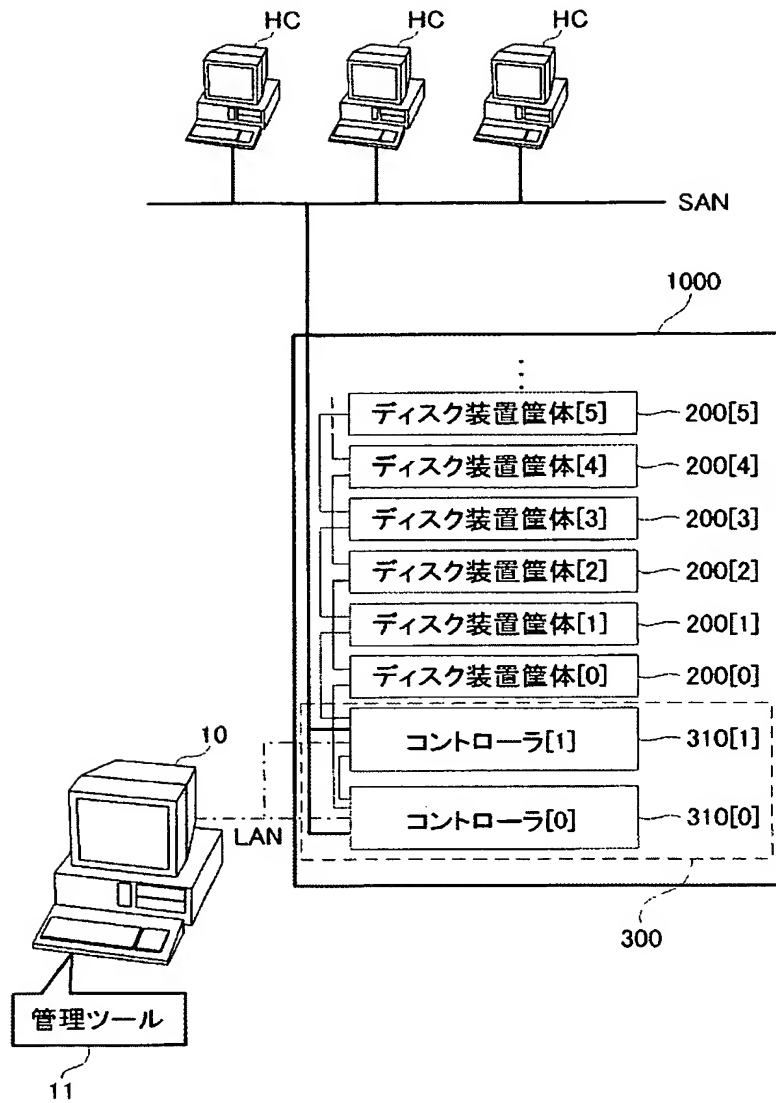
220...ディスク装置

220F...FCディスク装置

220S...SATAディスク装置
221F、221S、231F、231S...コネクタ
222F、222S...ハンドル
230...バックボード
232...DPA
232A...パスCTL
232P...バイパス
233、234、233A、234A...FC/SATAインタフェース接続装置
241、242...筐体管理部
251、252...PBC
300...コントローラ筐体
310...コントローラ
313...キャッシュメモリ
400...搭載ユニット
401...本体
402、403...ガイド
410...基板
411、421、413...テーパピン
415、416...コネクタ
420、420F、420S...ディスク装置
421...コネクタ
430...キャリア
430a...突起
430c...コネクタ孔
430s...スリット
431、432...レール
431a、431b...ネジ穴
433...ハンドル
434...ラッチ
436、437、438...孔
439...蓋
440...板
441...端部
450、450A...アダプタ
451、451A...本体
452、452A...基板
453、453A、454、454A...コネクタ
455...サブ基板
456、457...コネクタ
458...スペーサ
459...ネジ
1000...ストレージ装置

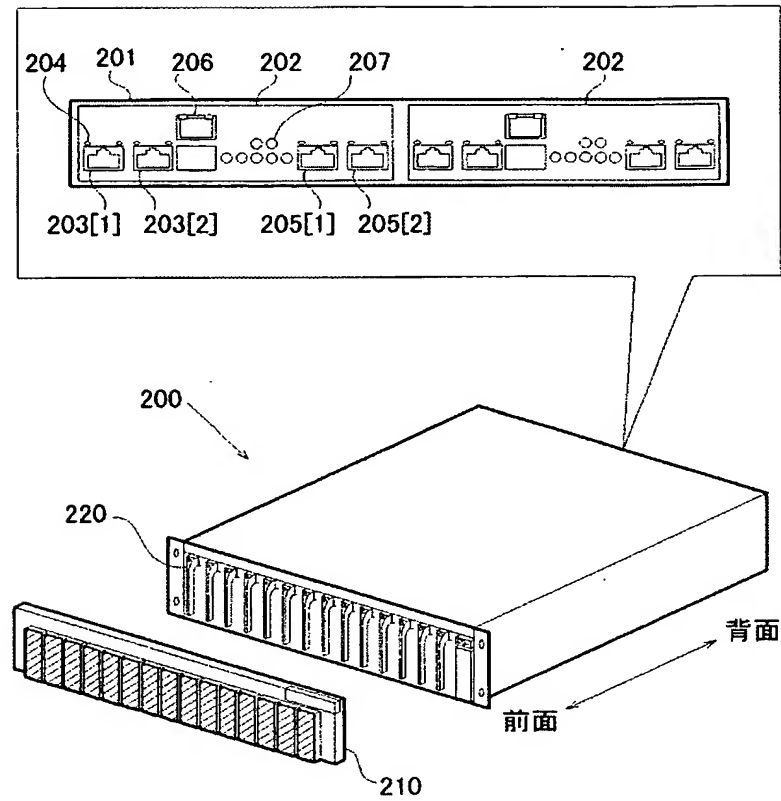
【書類名】 図面
【図 1】

【図 1】



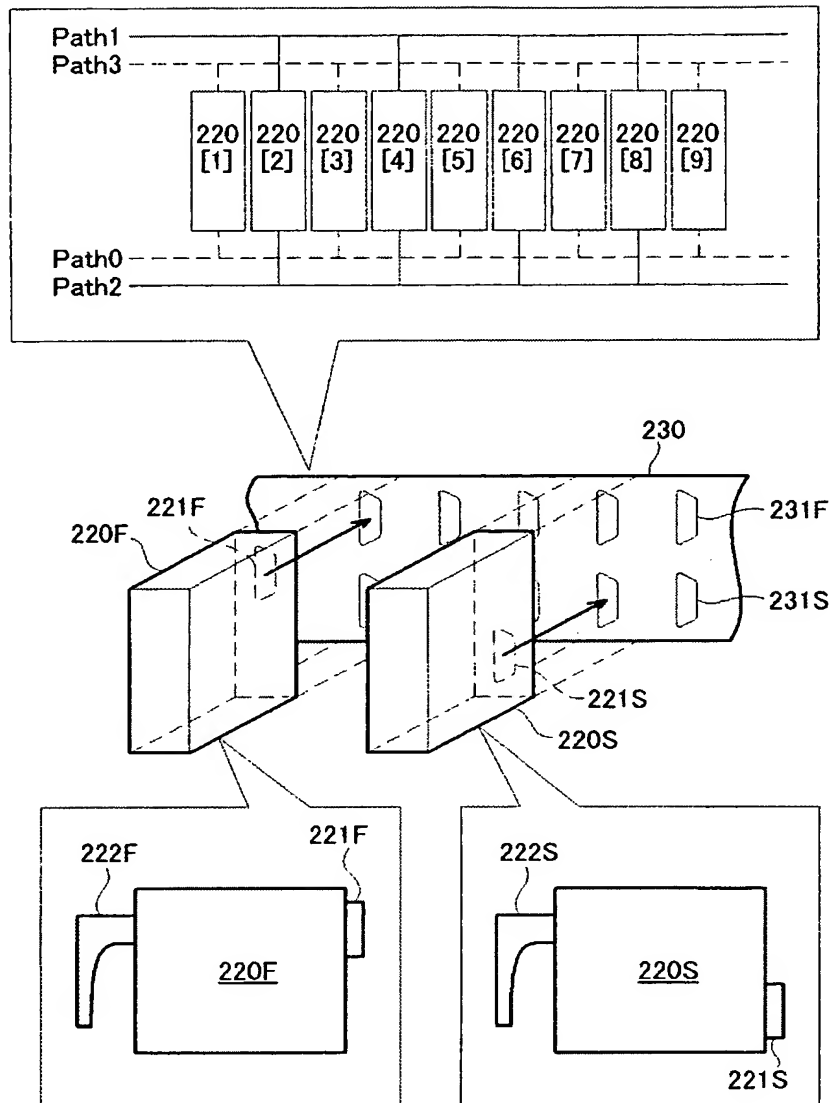
【図 2】

【図 2】



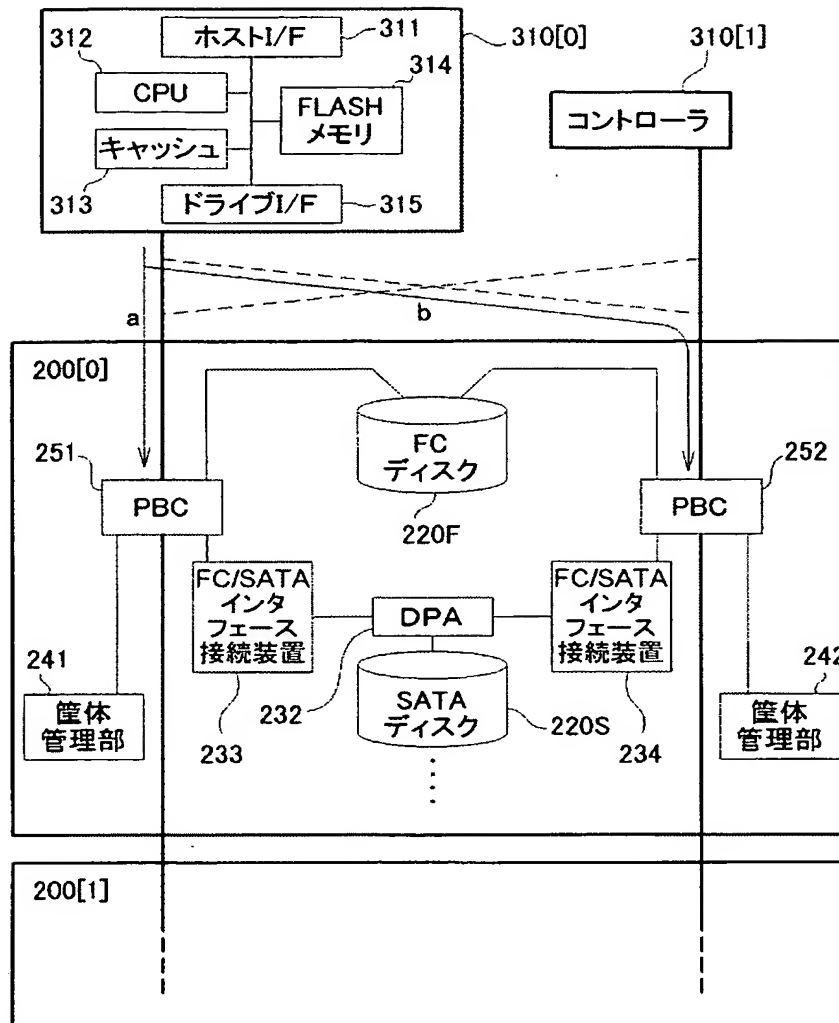
【図 3】

【図 3】



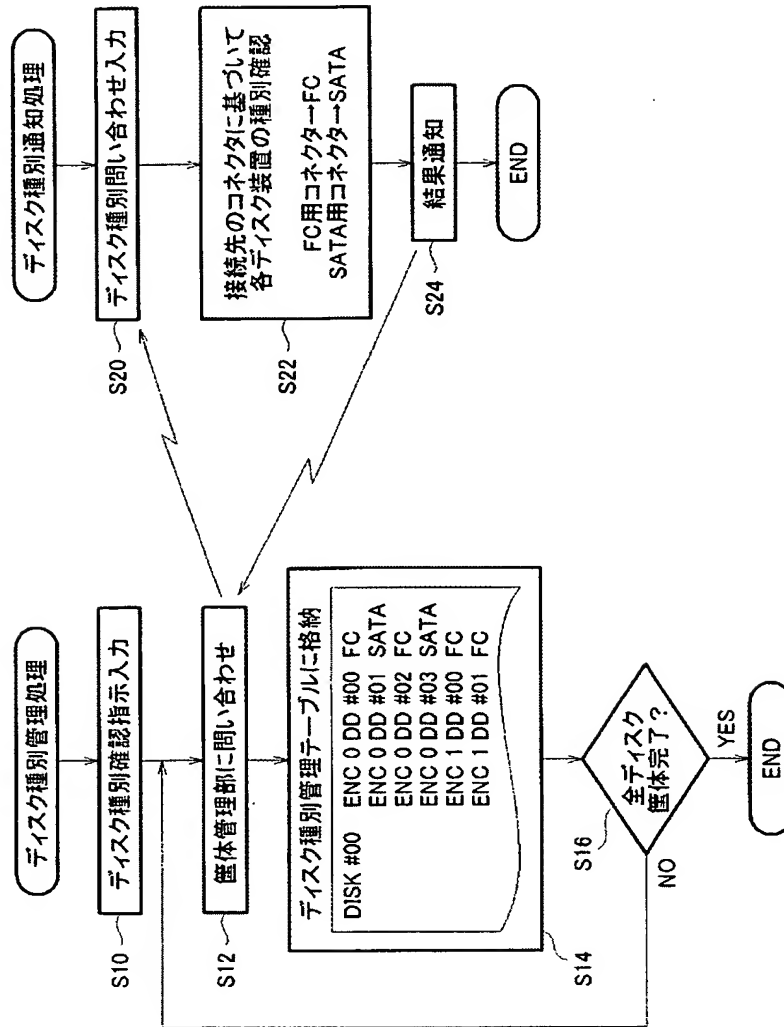
【図 4】

【図 4】



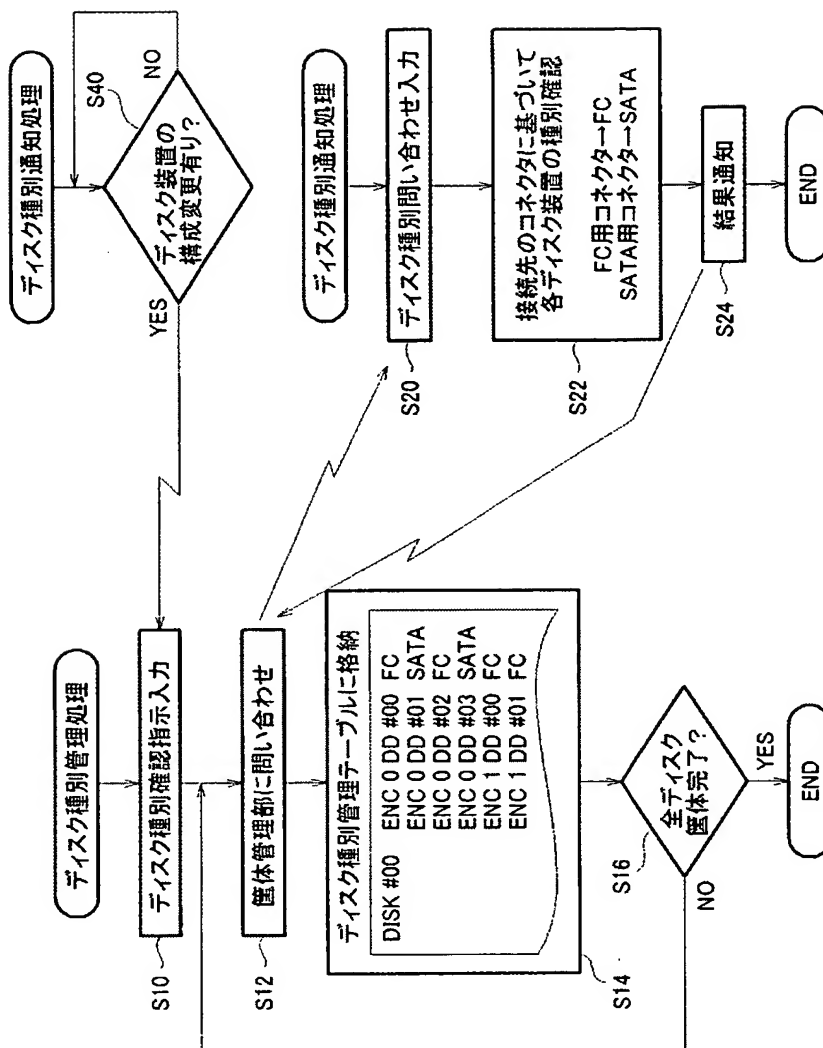
【図 5】

【図 5】



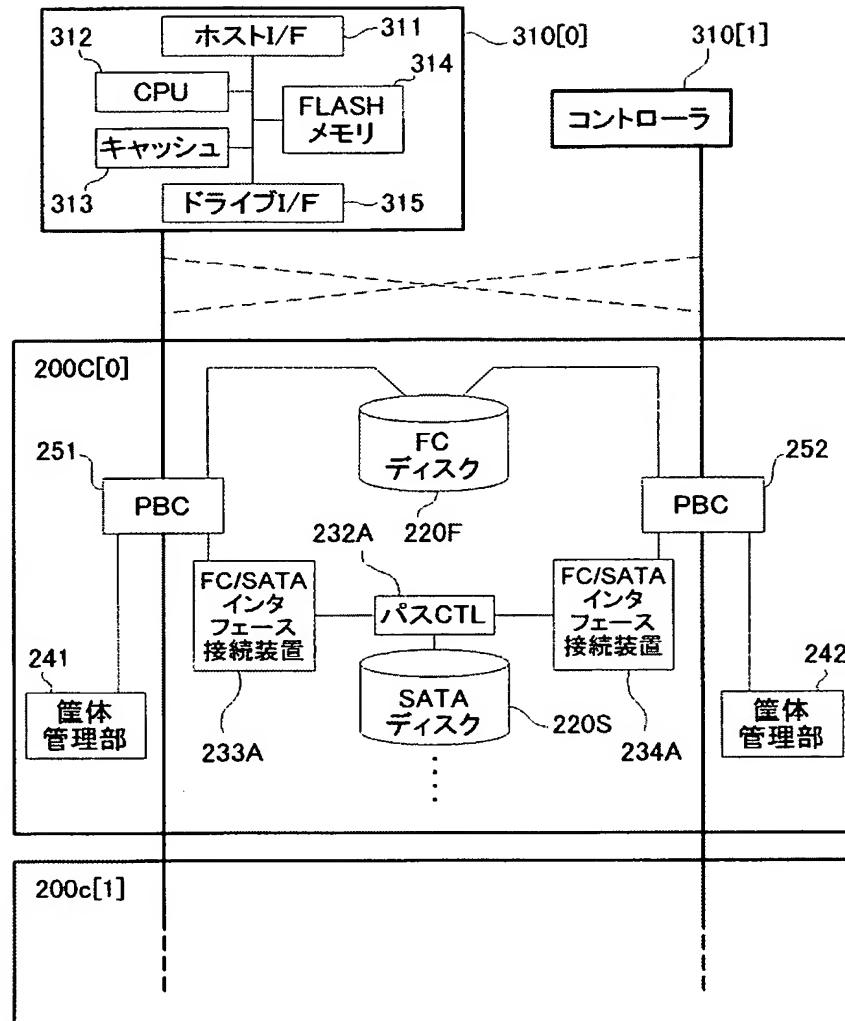
【図 6】

【図 6】



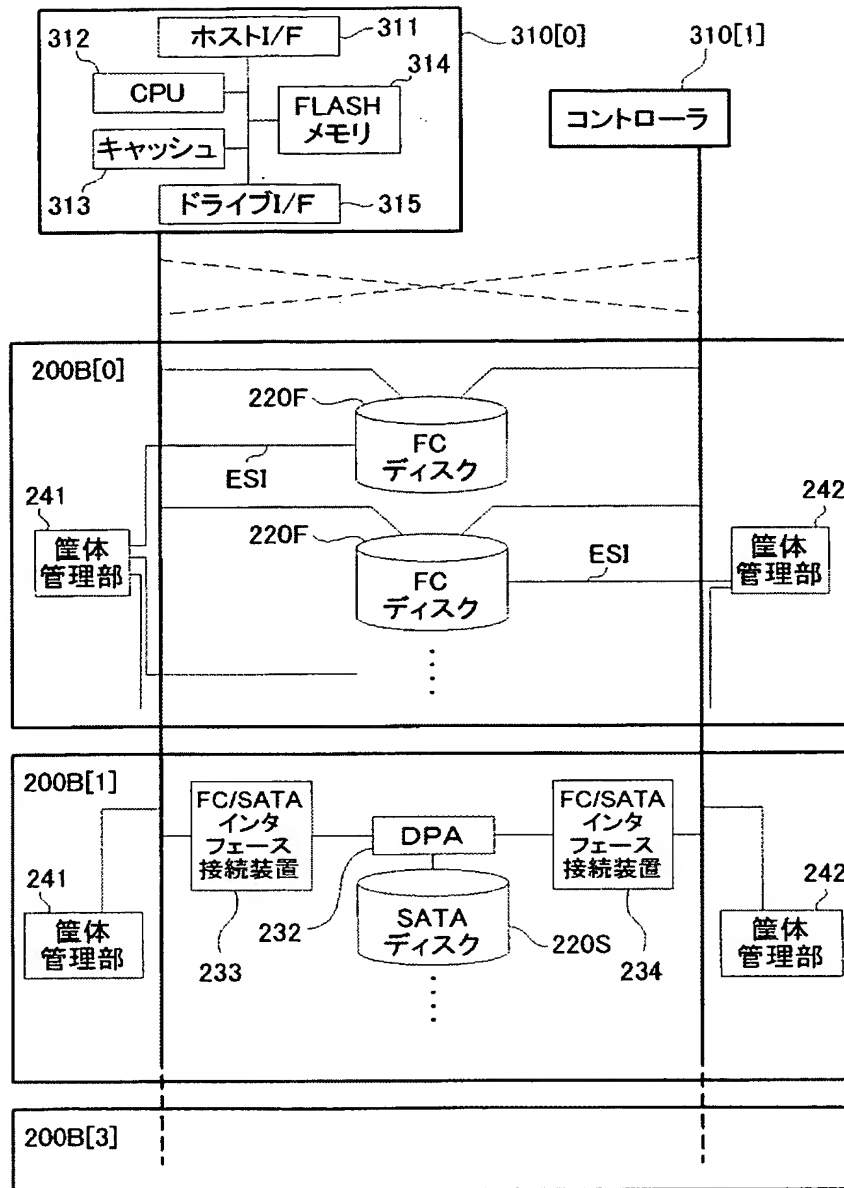
【図 7】

【図 7】



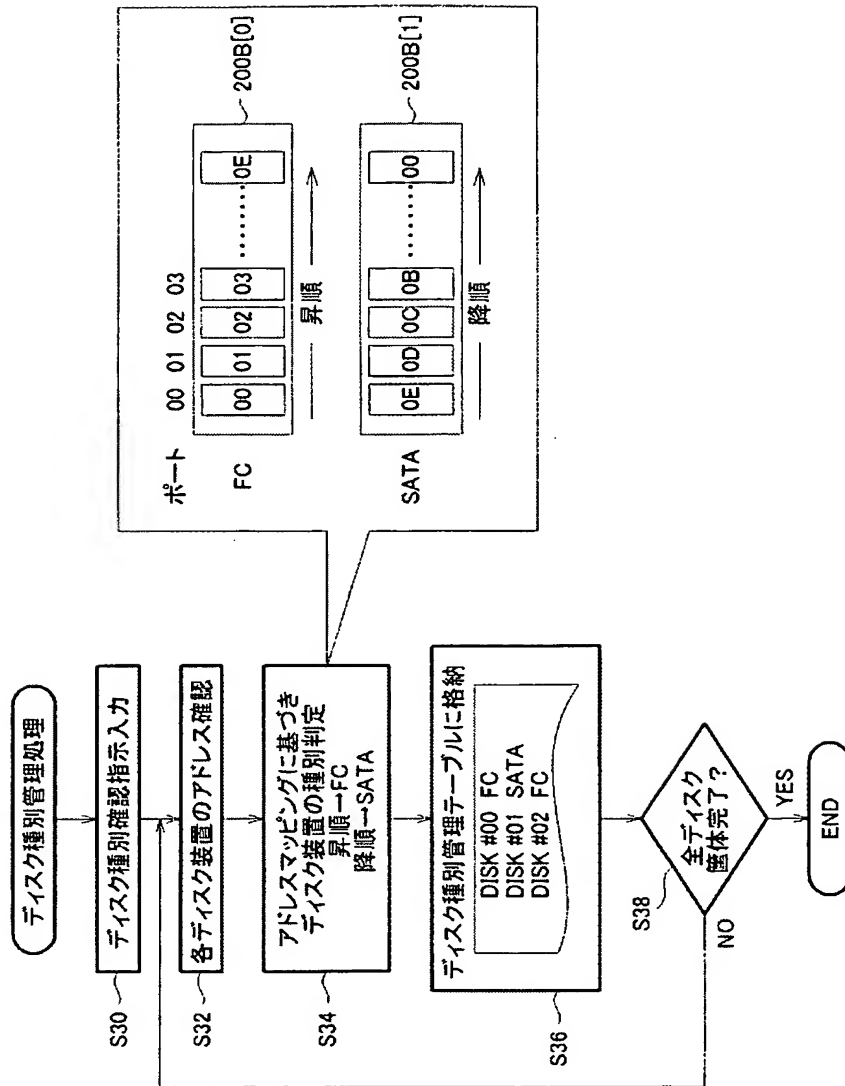
【図 8】

【図 8】



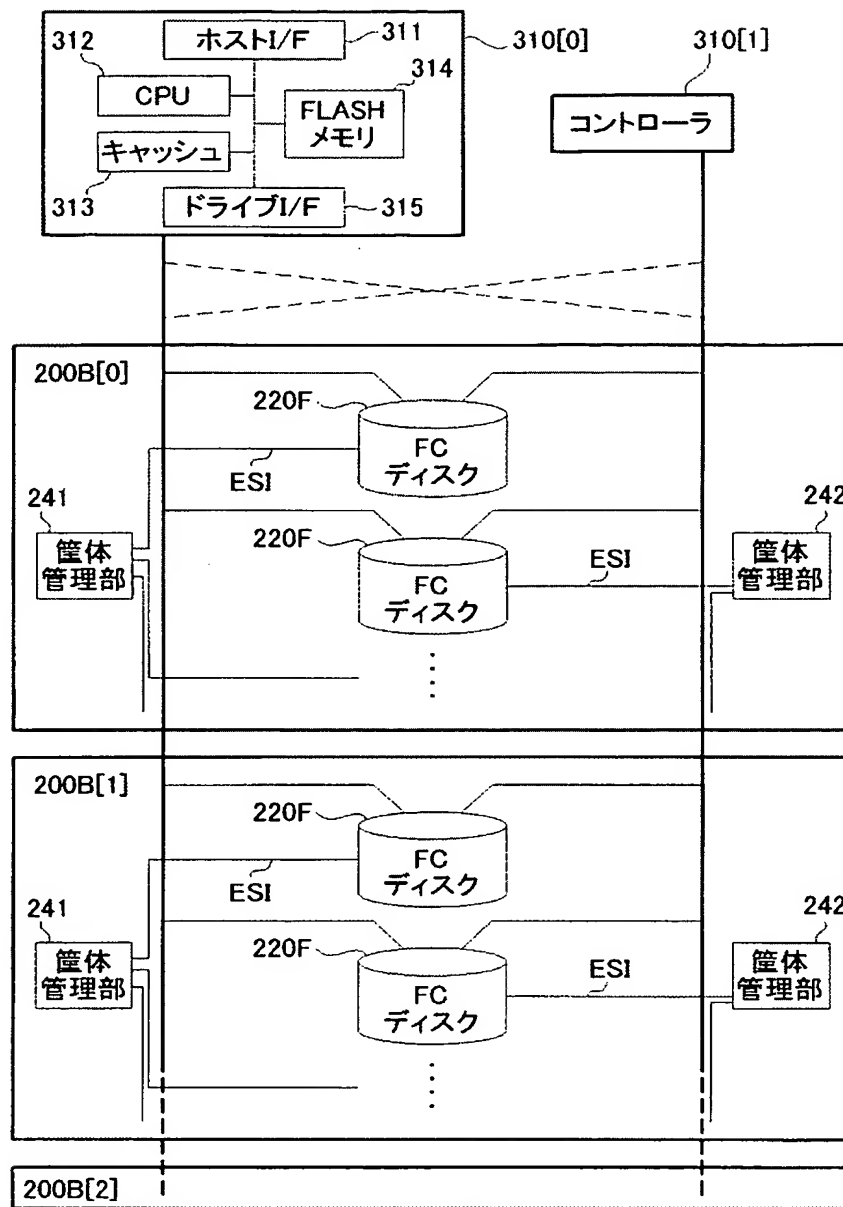
【図9】

【図9】



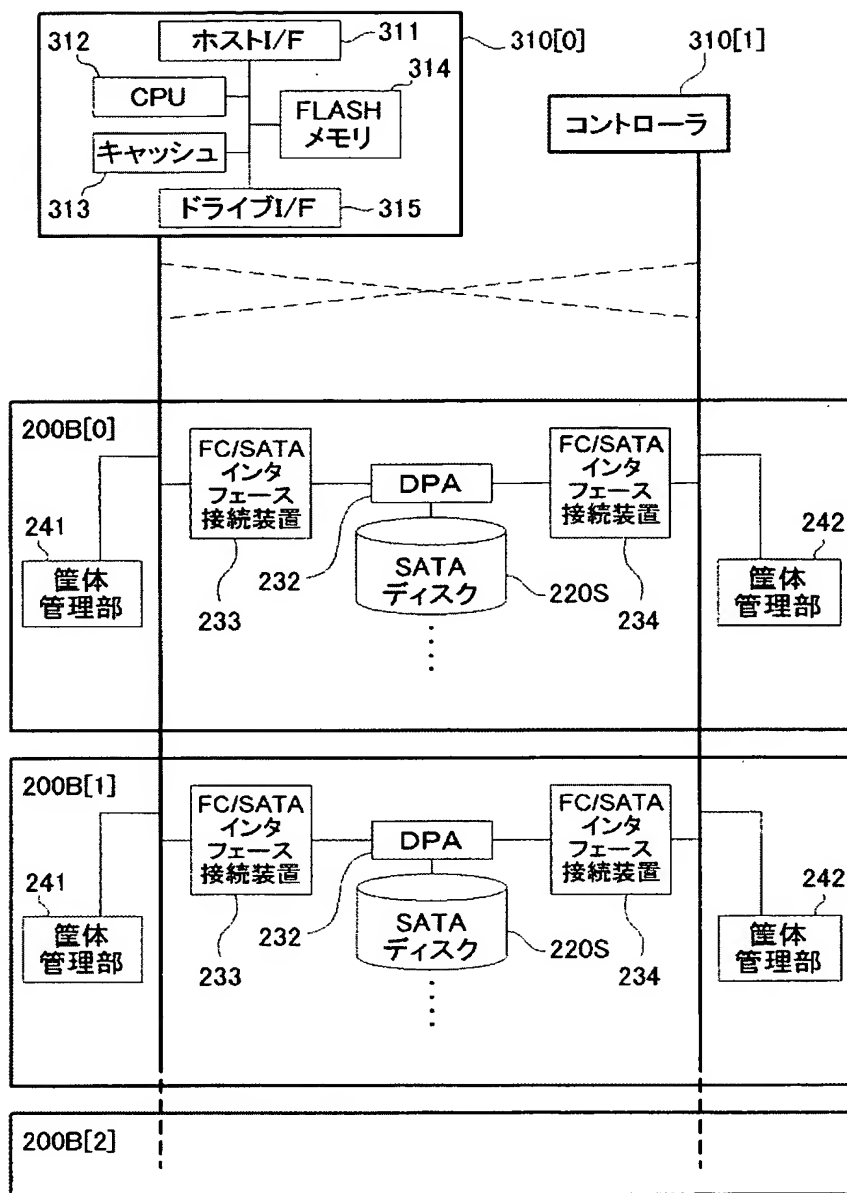
【図 10】

【図 10】



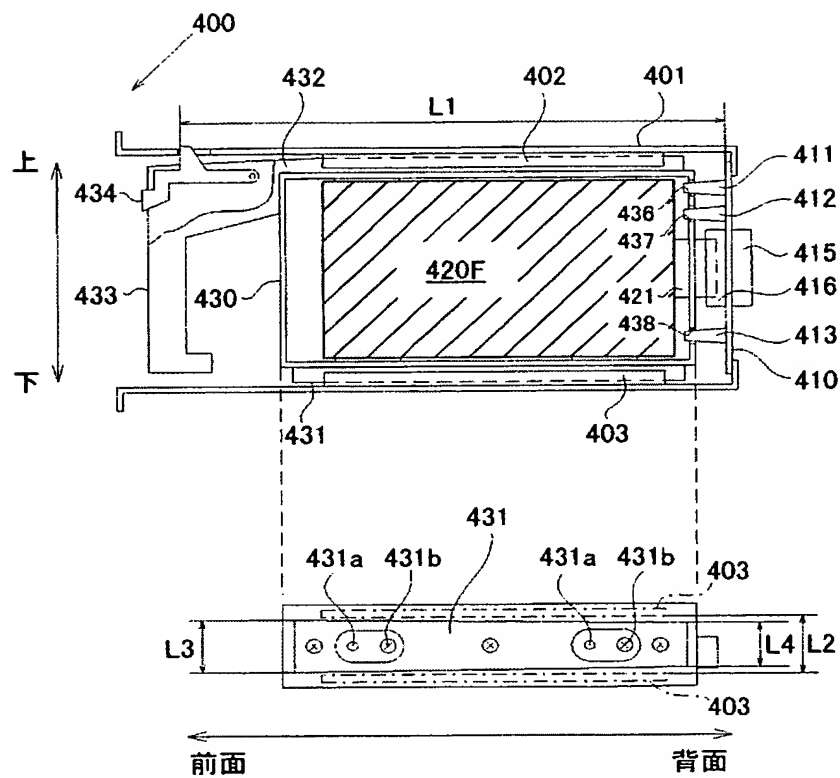
【図 11】

【図 11】



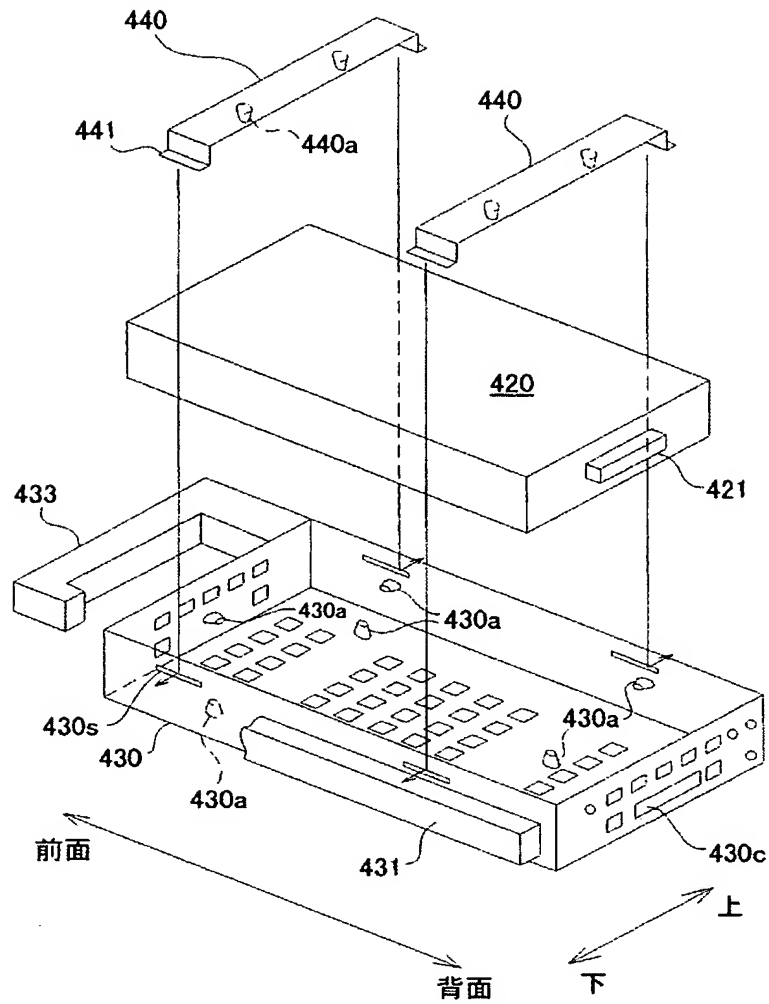
【図 12】

【図 12】



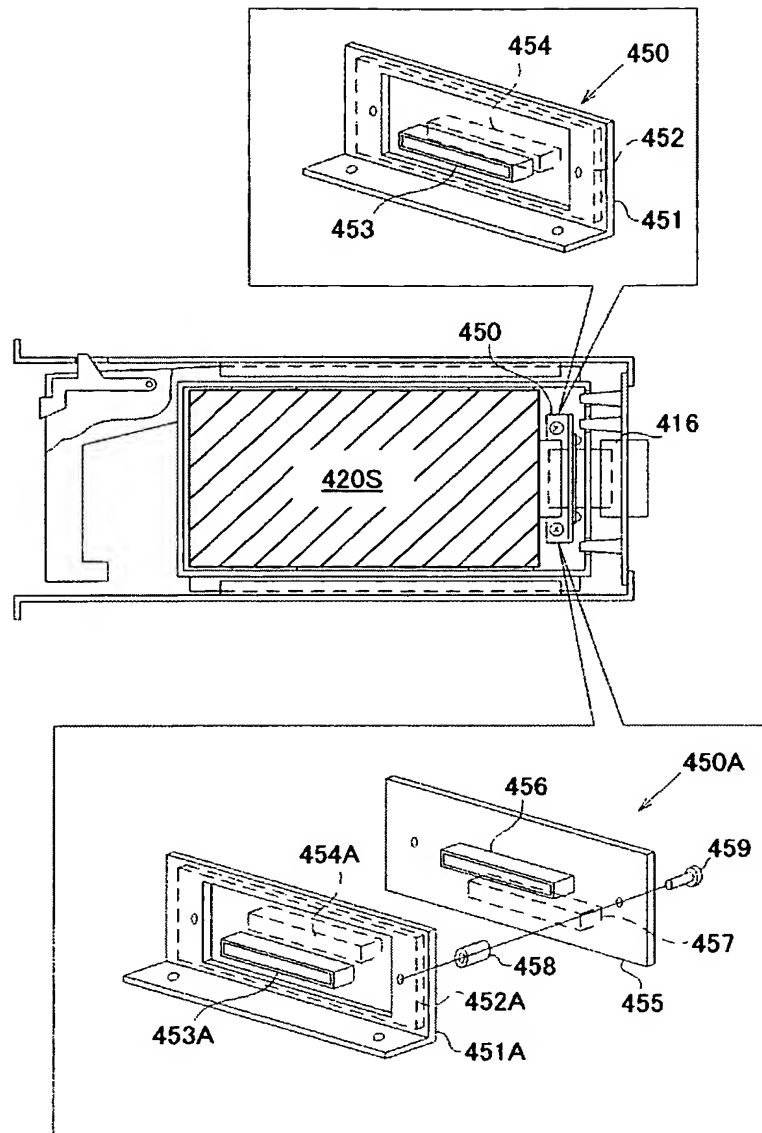
【図 13】

【図 13】



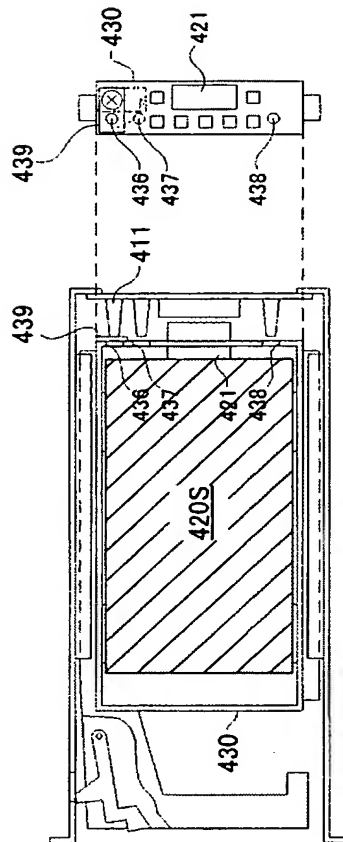
【図 14】

【図 14】



【図 15】

【図 15】



【書類名】 要約書**【要約】**

【課題】 インタフェースが異なる複数種類のディスク装置を混在して格納するストレージ装置において、ディスク装置の種別を管理する。

【解決手段】 ストレージ装置筐体に、ファイバチャネルインタフェースを有する FC ディスク装置 220F、シリアルインタフェースを有する SATA ディスク装置 220S を混在して格納する。SATA ディスク装置については、インタフェースを変換する FC/SATA インタフェース接続装置 233 を介して、ファイバチャネルに接続する。起動時などに、コントローラ 310 は、筐体管理部 241、または各ディスク装置への問い合わせや、各ディスク装置に割り当てられたアドレスなどに基づいて、各ディスク装置の種別を自動的に確認し、確認結果を管理する。

【選択図】 図 4

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2 0 0 4 - 0 3 1 5 0 7
受付番号	5 0 4 0 0 2 0 3 8 0 0
書類名	特許願
担当官	第七担当上席 0 0 9 6
作成日	平成 1 6 年 2 月 1 0 日

< 認定情報・付加情報 >

【提出日】	平成 16 年 2 月 9 日
-------	-----------------

特願 2 0 0 4 - 0 3 1 5 0 7

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[0 0 0 0 0 5 1 0 8]

1. 変更年月日

1 9 9 0 年 8 月 3 1 日

[変更理由]

新規登録

住 所

東京都千代田区神田駿河台 4 丁目 6 番地

氏 名

株式会社日立製作所